

## 会 議 録

|     |                                                                  |
|-----|------------------------------------------------------------------|
| 件 名 | 隅田地区 地域説明会・意見交換会                                                 |
| 日 時 | 令和6年7月26日（金）午後7時00分から午後8時30分                                     |
| 場 所 | 東部コミュニティセンター                                                     |
| 参加者 | 隅田地区 8名<br>今田教育長、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、大谷学校教育課長<br>東学校再編推進係長、東川、中山 |

今田教育長挨拶、東学校再編推進係長から資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。なお、出席した保護者には、説明会終了後、意見等を記入できる用紙を配布しました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1. 中下区に住んでいます。素晴らしいね、国と市の基本方針ですけど、統合していくとITとかデジタル化が進んでいくじゃないですか。これすると家庭環境によって格差が出るんじゃないかと思う。親御さんが、デジタル化に熱心な子と遊べ遊べという。これによって、いじめとか、落ちこぼれとか、こういう対策とかやっぱ考えていただいているのかな。私は孫も子供もいないのでちょっといいんですよ、こういうどんどんするのはね。だから全部いいことばかり書いているので、落ちこぼれとか、いじめ対策とか、結局、ITとかそういうことSNSとかでいびつな、陰険な、かえってひどい誹謗中傷出てくるじゃないですか。要するに子供同士で授業中でも書き込まれたら、もう極端な話ですよ。逆にそれを対応できない子供がよく落ちこぼれていく。学校へ行くのが嫌になる、登校拒否が起きるんじゃないかと思っているんですけど。我々年寄りはこのこと心配することはないと思うんですけど、やはりねいろんなニュースとか見ていると、こういうことが将来起きてきた場合に、やはり事前にガードしとかなないと、私は思っているんです。皆さんまた一考していただいたらよろしいかと思います。いじめ、落ちこぼれは、このIT化によって逆に増えると思うんです。ものすごくえげつない格差が出てくると、逆にそういうことも1つ考えておいてください。ありがとうございます。

（教育委員会）

ありがとうございます。学校といいますのは、昔から変わらない部分がありまして、まずは人格を形成する場であるということ、これはもう皆様もよくご存じかと思います。現在、それぞれの学校で先生方が子供たちを育てる中で、心を育てるというのは大事なものと思って取り組んでおります。その中でも、いじめの問題であるとか、それからおっしゃられました学力に関する差が出てくるということも十分考えられます。それらについても学校の方では、まずいじめの未然防止ということで対応をしております。また、万が

一、いじめが発生した場合には、すぐにいじめの対策委員会を開いたり、児童生徒のサポートをするために教育相談センター、それから青少年センターに相談員や臨床心理士もおります。もちろん、学校の方にもスクールカウンセラーを配置しまして、子供たちのケアに当たっているというような状況ですので、これらにつきましては、今後もずっと継続して取り組んでいきたいと考えております。

また、学力につきましても、ICTを本当に多用するようになりました。これは見てわかる部分では、非常に効果的なものです。学習を効率的にしていく、進めていくという上で大変役に立っております。それと同時に、やはりクラスメイトとともに対話することによって、いろんな考え方をお互いに共有をして、そして回答を自分たちで求めていくスタイルをそれぞれの学校の先生方が努力して授業を作っている最中でございます。教育委員会としまして、それらのサポート、支援をするために研修会を開いたり、また校長会でこのような指導をするようにということで助言をさせていただいたりしていますので、これらについては引き続き続けていくつもりですのでどうぞまたご支援よろしくお願いいたします。

2. 中島区に住んでいます。20番目の資料で、橋本市教育委員会が考える望ましい学校規模ということですが、小学校も中学校も1学年2学級以上ということで、これを人数に換算するとここなんかは、40人学級というのがはっきりしているんですけども、小学校の場合は35人が1学級で、プラス1に36人になったら2学級になるという、そういう考えでよろしいんですかね。それじゃ、35人から36人以上の1学年が望ましい学校ということですね。

(教育委員会)

おっしゃるとおりです。35人が国で定められた人数のクラスの上限ということになっております。

3-1. 垂井に住んでいます。直接、今言われていることには関係はないですけど、間接的に聞かれるんですけどね。これは前のときの会議のときも言わせてもらったと思うんですけど、あやの台の小学校ありますよね、それとあわせて紀ノ光台、あそこの子供たちは、今境原小へ行っていますよね。そういういろいろ事情があって、あやの台小の学校設立にあたっての関係で、紀ノ光台の子は境原小学校に行っていると思うんですよ。けども、あの地域はもともと隅田校区ですよ。あそこへ来られる方は、おそらくあやの台小という思いで来られていると思うんです。でなかったら、私に聞きに来る人はおらないと思うんですけど、よく聞かれるんですわ。私も前の会議のときにも検討委員会でお話したと思うんですけど、今すぐとは言わなくても、ゆくゆくは最終的に紀ノ光台の子供たちの学校が、あやの台小に行けるのかどうか、その方向性を聞いておきたいんです。もう今までどおり絶対あかんようにするのか、人数的には、あやの台小としても大体ピークの時期じゃ

ないのかなと私は思っているんですけど、彩の台も家がどんどん増えてきて、当時のことを思ったらかなり増えているんでね。あそこは吸収されるようなことは恐らくないと思うんですが、紀ノ光台の方の境原小学校については、その辺の合併の対象には将来的に絶対入ってくると思うんですよ。その時にあやの台小の方に行きたいという人については、行けるようになるかどうかということを知りたいんです。以上です。

（教育委員会）

現状ですけども、紀ノ光台にお住まいのお子様の指定校を、あやの台小学校に変更するという考えは持ってございません。紀ノ光台地区の指定校の変更につきましては、自治会からスクールバスの運行の要望を受けたことから、教育委員会の考え方としまして、紀ノ光台地区の指定校を境原小学校から隅田小学校へ変更する考えがあることはお伝えいたしました。教育委員会が検討していることを、自治会の皆様や境原小学校の保護者さんにはお伝えしているところです。

実際に指定校変更が、いつどういった内容で行われるかにつきましては、自治会の方のご意見や教育委員会議の議論によりまして判断していくことになるんですけども、現状、紀ノ光台のお子様の指定校を、あやの台小学校に変更をするという考えは持ってございません。

3-2. その辺をはっきり住民に話しといてもらわんとね。ということは、あそこ行く人は外からも来ますやろ。市内の人もおるんだけど、よそから来られた方にとっては、あやの台小の方向に向くんですわな。ほんで教育委員会としてはそういう考え方を持つとらんと言うんやけど、元々あれは隅田校区。教育委員会がその辺知っとるか知らんのかは知らんけどよ、それを境原小へ行っているわな。それはその時の条件がそういうことだったんで仕方がないけども、私は思うのは、将来的なこと言うとなのやで、今すぐと言うとらへのやけど。それは知らんさかいに、ここへ来たらあやの台小へ行けると思っていただけ、あやの台小へ行かれへんと何でなん、ということと言われるんでね。

その辺、教育委員会にはそういう相談があるか無いかはわからへんけども、私は地元の間やからね、聞かれるんよ。そんな考えは毛頭ありませんとすっぱり言ったけどよ。元々のことを十分考えて言うたらそれは言われへんで。我々の住民としたらそれは行政の勝手や。元々あそこは隅田校区やで、霜草から隅田小学校へみんな歩いてきとったやん。それは今、便利なスクールバスがあるさかいね、それで解消はできるけどよ、だけど住民としたら、これスクールバスも何もしないで歩いて通うんやったらあやの台小へ行きたいわ。

この地区の人、まだ何で行かれへんのと聞かれたときにね。あれが学校開設するときのお金の問題で行かれへんようになつとんのよ、その辺は聞いてくれとるやろ。元々の住所は隅田校区やさかいに。そんなに若い人は知らんけど、我々、元々住んどる住民としたらね、すっぱり、そんなもの言われたら困るんよ。

俺はこれ元々から言うとなんのよ。俺はすぐにとは言わんけど、将来的にやで、その方向で考えていきますと言うんやったら分かるんけど、そんな考えないとボンと言われたらね。

今回、隅田小と恋野小と合併するということについては、これはもう誰が見ても仕方ない、入学生1人やんな。そういう面から見たら、そらもう合併することについては仕方ないと思うとる。真っ向から賛成とかそなん無しにしても仕方ない。けど、恋野の人については、恋野の人はここに来ていないけども、1人になっても、ここでおりたいという気持ちとしたらあると思う。100%賛成ではないと思う、聞いたらやで。これはもうしゃあないやん、流れやさかいに。やっぱり将来考えたときに、そら1人よりかは大勢の中でやっていく方が私はいいと思うんでね。

小学校の合併については、私は別にどうってことないけど、これは余計な話になったけど、このあやの台小のね、あやの台と紀ノ光台の関係を、今、真っ向にスパッと言われたさかいに、俺に反論するけどよ。考えないと言うたさかいによ。

(教育委員会)

すいません。ちょっと私のお答えの仕方がスパンというような印象で申し訳ありません。現状としては、今そんな考えを持っていないところですとお伝えしたらよかったんですけど、そう言い切るような形ですいません。今日、意見交換ということでいろんな意見を聞かせていただく中で、現状の形をお答えさせていただきました。

#### 4. 選択うんぬんという話出ていますわな。それは可能ですか。

(教育委員会)

学校教育法施行令というのがありまして、その中で、学校の校区は、市町村で決めることができるということになっています。保護者につきましては、その定められた校区で、子供を通わせなければならないとなっているんです。ただし、様々な理由で、この指定された学校ではなくて、隣の学校へ行くという場合も考えられますので、その場合は、教育委員会が認めた場合は行くことができるとなっています。その理由としまして、例えば、自分がやりたいクラブが自分の校区の学校にない。だけど隣の学校にはあるという場合には、そういう形で申請をしていただいたらいけるというふうになったりします。それから人間関係がもつれて、どうしてもその学校でいられなくなったという場合も認められるようになります。その他ということでも、教育委員会が認める場合は、隣の学校へ行くということはできます。

これまでも説明会に行かせていただき、同様のご意見もたくさん頂戴しています。現在は、そのようなことも含めまして、教育委員会でも検討しているところでございます。

5-1. それは隅田だけの問題ではなくて、他の地域でもそういう声があるということですね。それだけちょっと聞いておきたい。隅田だけが言うとするんではない。他の地区でもあるのか、というのを教えといて欲しいんですけどね。

(教育委員会)

他の地域でもそういう声をいただいております。ただこれでもしも、全体が混乱するようになってしまう、今度は学校の運営がままならなくなるということも考えられますので、前向きに検討はしているものの、やはり慎重に考えていきたいと思っています。

5-2. その線引きする時は、もう一度説明会をされるわけですか、ご父兄とか、そういう方に、みんな心配しているんでね。その自由選択ができなくて、子供の意志、あそこへ入りたいと子供が言うことないんですよ、小さい子や小学生の子が。それをあなたたち、言ったでしょ。それは綺麗事なんですよ。結局、親の気持ちで入るんですよ。これだけはちょっと覚えておいてくださいね。

それで心配しているのは何度も言ってくれたんですけども、隅田の八幡さんを中心に、残っているんですよ。そういうことをやっぱり大事にしていきたいという意識もあるんでね。それから、あそこは行けるから買った人もいてる。隅田だけだと例えとして悪いんですけど、そういうこと聞かれる、何であやの台小に行かれへんねんと。隅田小学校でもいいけど。そういうことを線引きする時だけは、ご父兄の理解を得て、我々にも説明をしていただきたいと思います。説明会やから仕方ないんですけども、ちょっと次の会では、しっかりと答えて欲しい。

(教育委員会)

説明会も今回で終わりというわけではなく、これからまたいろいろ決まっていくこともあるかと思うので、これからも説明会等、開かせていただきたいと思っています。

6. 紀見ヶ丘に住んでいます。ちょっと先ほど、いじめ対策ということで未然防止とおっしゃっておられたんですが、子供たちというのはなかなか自分の意見を表出することが難しかったりとか、そういう子がたくさんいらっしゃると思うんですが、そういう未然防止、どのようなことを具体的にされているのかわからないので教えていただきたいのと、提案申し上げたいことがあるんですが、先それお願いします。そのあとちょっと提案申し上げたいことが。

(教育委員会)

確かに子供たち、自分から進んで今苦しいんだというサインを出してくれるのは、なかなか無いことかとは思いますが。ただ、日頃の学校の学校生活において、担任であったり職員は、子供たちの本当にそういうサインを見つけられるような日頃の関わりをしっかりと大事にするようにということで、先生方は努力をされている状況で、その中で、子供を担当1人でその子供を見るんじゃなくて、学校職員全員でそれぞれの子供たちを見ていくということ、現在取り組んでいます。例えば、あやの台小学校なんかも、本当に職員全員が子供たちを見るようにを前面に出して取り組んでいるところですけども、そのような中で、誰かが何か気になるような行動をしているのを職員が見つけた場合には、お互いに共

有して、どういうふうな状況になっているのかを子供たちに聞いたり、或いは保護者の方と連携して話を聞いたり、未然防止には努めているというところです。

もう1つあるんですけれども、実際に子供たちの様子を知るところで言いますといじめアンケートが定期的に行われています。その中で子供たちが、何か気になることを書いてきたら、それについて逐一一人一人について、状況を確認することをしております。いじめアンケートにつきましては、年間3回から4回になっているんですけれども、各学校はそれ以上に校内独自のアンケートをしまして、子供たちの様子を逐一把握しようと努めているところです。今、手元にはないんですけれども、年間3回、問題行動等の中でいじめのことについても統計は出ております。教育委員会、学校教育課の方でも、そういう数は出しておりますので、それは教育委員会にお越しいただけたらと思います。

6-2. 河内長野の教師の方でちょっと取組をやっていたことを聞いて、提案というかこういう事例がありますとお伝えしたいんです。タブレットを配られていますよね。そこに、ある教師の方が感情ボタンというのをつけてまして、今日は嬉しいとか、3つぐらいのボタンを作ったと、SOSボタンも作ったそうです。それが河内長野の1人が始めたことが、河内長野全域でやるようになったそうで、全域が何校かでやるって言ったかな。そういうSOSボタンが、それ簡単につくれるみたいなんですね。そこに子供がコメントが書けるようになってきているみたい。参考程度に、まずやるかやらないかは別として、そういう取組で防げたという事例があったということを知らせたいだけなんです。

教師が子供を見てもね、なかなか変化に気づけないぐらい多忙だし、なかなか気づけないんですね、連携したかって。僕も教育大を出ていますから、子供たちの現場に行って、そういうことやったことあるんですね。なかなか教師は多忙だし、そこまで理想のことをおっしゃいましたけど、気づくの難しいんですね。そのまま子供が自殺してしまうようなことはあるんです。そういった今タブレットが配られているのであれば、河内長野ではそういう取組がなされて、それがあから安心材料とはならないんですが、1つのSOSを出せる子供たちのね、そういうのはあってもいいんじゃないかなという方には、ちょっと個人的な意見で提案させていただきたいなと思ひまして発言させていただきました。

7-1. 霜草に住んでいます。境原小学校が城山小学校と統合する話を聞いておりましたところ、今日の資料を見ますと、令和11年に境原小学校は150人の児童が見込められるにもかかわらず、城山小学校と災害対応の面からと書いてありますので、ちょっとそこらあたりを、災害のあたりをちょっとお聞きしたいんですけど。

(教育委員会)

境原小学校の災害対応ということを書かせてもらってあるんですけども、境原小学校にありまして、体育館のところなんですけども、その体育館の斜面に土砂災害特別警戒区域が設定されております。もう一つ北側の方、校舎からは下になるんですけれども、そこに

も土砂災害特別警戒区域が設定されております。もし大雨とかの時に、被害が起きる可能性があるというところになるんです。そういった面で、我々も昨年度に調査もしたんですが、過去にもそういったちょっと崩れたような事例もあったりとかで、対策等々も必要ですよというような結果も出ています。また、北側の斜面については直接たちまち大きな被害が出るような可能性は低いとされているんですけども、ただ、もしですね、雨以外の、ものすごい大きな地震があったときに、完全に子供たちを守るリスクというのを、ゼロにはできないということもありまして、そういった面から人数は増えているんですけども、令和9年度を目途に再編を図っていくというような方針を立てているところです。もちろん校舎とかは、耐震もできていますので、校舎の耐震基準とか満たしておりますので、地震だからたちまちどうっていうわけではないんです。安全ではあるんですけども、万が一に備えてこのような方針を立てさせていただいているということです。

7-2. 付け加えて言わしていただくならば、霜草は境原小学校が災害のときに行くところになっているので、その災害によって何か違うと思うんで。ちょっとそれだけ言っておきたい。

(教育委員会)

災害の状況によりまして、避難所として開けるか開けないかとかっていうのを判断していくような形で、危機管理室が運用していくと思いますので、よろしくお願いします。

8. 中島に住んでいます。先ほど聞いていたら、紀ノ光台、保護者や子供さんの意見でちょっと融通が利くような形になるかもわからないんですけども、隅田の面で言うと、路線バスがなくなりまして、平野・山内・霜草の3地区を1台のバスが全部巡回して、スクールバスとして回ってきているんです。そうすると、時間がすごくかかるんで、もし紀ノ光台が隅田小学校区になるとしたら、紀ノ光台と霜草でバスを走らせてもらえれば、山内・平野で1台という形になると、負担がすごく減ると思う。山内・平野に住んでいる方も、ここで子育てできるんじゃないかという形で、地元に戻ってきてくれる可能性もあるんで今スクールバスは1台という形が2台3台となっていたら、隅田の小学校の環境を山手の環境が変わると思うんで、できたらそういう方向も考えていただきたいと思います。以上です。

(教育委員会)

いろいろバスを走らす上で、ルートでありますとか時間でありますとかを検討していきたいと思います。今、隅田の方、山内・平野・霜草ルートと河瀬から入ってくるルートがございまして、保護者の方々に見守っていただきながら運行もしております。また、こちらにも検討させていただきながらお願いしたいと思います、よろしくお願いします。

9-1. これは教育委員会として各小学校とか、うちは隅田小学校。父兄の方に報告していないのか。今日のこの説明会について。

(教育委員会)

この地域説明会を回らせてもらっているんですけど、先に学校再編の対象校の保護者様に、こういう場を設けさせていただきました。現役の保護者さんと、地域の方と一緒にしてしまいますと時間的なこととか、意見交換というのも言いたいことが違うかというのもありましたので、先に保護者さんにさせてもらっています。

9-2. この広い場所で少ないからね。公民館の100人入るところするのが普通やけどね。あまりに少ないので、ちょっと言わしてもうたんやけどよ。

(教育委員会)

区長会長さんの方にもご協力いただいて、回覧とか回させていただいて、ちょっと大きい会場を用意させていただいたんですけども、またこれからもこういった説明会、2回目とかもあるかと思いますのでよろしくお願いします。

9-3. 今回の合併の事については、私も隅田の人間としては合併することになるんやけど、恋野地区のことについては、いろいろご意見あると思う。各区長から、すでに聞いています。ただ、隅田としては別に大きな問題はないと私は取っとったんで、こういった意見を聞く場を設けてもらったのはありがたいことなんやけど。これは、これから先、少子高齢化の時代を迎えるにあたって、仕方がないことやからよ。もうできるだけ、してもらうのはええんやけども、やっぱりあんまり人数的に少なかったら、最終的には行政の方の費用の面でもかかってくることやし、それはもうあんまり問題ないさかいええんやけどね、隅田の区長会としても、先ほどからも意見はありますけども反対する人はおらないと私は思います。恋野にしても議論したら、言うこと大体決まってくるわな。それはもう仕方ないことなんで、このままの現状のままで、意見は聞いてもらってもいいですけど、進めさせていただきたいと思っております。以上です。

(教育委員会)

ありがとうございます。また来週、恋野地区の地域説明がありますのでまたいろいろご意見聞かせていただきたいと思います。

10. 昨日もこんな少なかったんです。余談ですけども、昨日も柱本小学校でしたけども、今日よりはちょっと多かったですが、少ない方でなかなか紀見ヶ丘の方にも聞いてみましたが、あんまり知らなかったみたいです。広報に載っているかもわかりませんが、広報自体を見てないということもあるのかなというのと、ちょっと子供の教育について意見申し上げたいんですけども、今の子どもはY o u T u b eとか、そういった子供たちと遊ぶことが非常に多くてですね、いろんな自然遊びをやったりとか、いろいろプログラム組

んでいろいろやっております。子供がなかなか集団遊びができなかったりとかですね、なかなかそういう子が多いんですね。自分で考えというようなことを目標に掲げておられますが、なかなかゲーム脳というか難しいんですね。子供と感性を磨くというようなことを、これなかなか項目挙げていますが難しいんです。

橋本でやっぱり自然がたくさんありますので、それを生かした何か教育の現場では難しいのかもわかりませんが、自然体験とか何かそういったことを子供たちにさせてあげたいというふうに、木を使って何かたき火とかですね、火は危ないとかおっしやるかも知わかりませんが、やはりこの橋本ならではの取り組みめるようなこともなんか組み入れていただきたいと思っております。

他がやってないようなことを、橋本ならこうやっていますよというようなことを全国にアピールできるようなことを、昨日も岡潔のことを世界にアピールすべきだという意見も言いましたが、何か橋本ならではのね、何か1つでも2つでも教育の中に取り入れていただきたいというのと、やはりこういうことは皆さんにやはり知らせていただきたい、というのを昨日言わせてもらったんですが、やはり知らせてないとなかなか集まれることにならないので知らせていただきたいと、いろんなあらゆる方法でと思います。以上です。

(教育長)

ありがとうございます。今ご指摘いただいた子供の体験不足は、本当に切実なものがあると私も思っております。最近ちょっと、それに関する読んだ本で衝撃的なこと書いてることがあって、やはりその親御さんが、何らかの体験をしたことのあるご家庭の子供さんと、そういった体験をあまりしてこなかった親御さんの子供さんの体験の経験とでは、かなりの違いがある。これはいろんな格差というようなことを言われていますけれども、体験格差として生活スタイルの中で、子供に影響は出てきているよというようなことを書いた本でした。

橋本市では、やはりそのことを解消していく取組の1つとして、地域の人たちに、いろんな力を借りながら、教育課程の中で体験できるようなこと、一緒に学べるようなことで取り組んでもらっています。いろんな教科の学習は当然やりますけれども、それ以外の地域課題について、みんなで考えたりで自然体験をしたりするのはすごく大事なことです。そういったことは、今も取り組んではいるんですけども、しっかり取り組んでいかなければならない課題だという認識を持っていますので、意見としていただきます。

※意見書の提出はありませんでした。